

教養試験 (行政「一般方式」)

No.	科目	出題内容	正解	正答率	講評
1	文章理解	内容把握	4	A	【文章理解】 昨年同様、内容把握2題、文章整序1題、空欄補充1題での計4題の出題となった。No. 1は解きやすかったが、それ以外の問題はやや解きづらく、特にNo. 4の空欄補充は空欄の数が多く正答率が下がっている。この問題は空欄AとBを埋めるのは容易ではないので無視をして、CとDのみに注目して解く問題であった。全体として、例年よりもやや難化したといえる。
2		内容把握	5	B	
3		文章整序	5	A	
4		空欄補充	2	C	
5	英文理解	内容把握	5	C	【英文理解】 例年通り、内容把握4題の出題であり、エッセイや物語文を含む出題であった。全体としては例年通りの難易度であった。No. 5とNo. 8は、語彙レベルが高く、特にNo. 5は抽象的な内容で正解しづらい問題であった。逆に、No. 6とNo. 7は容易な問題であり、確実に得点したい問題であった。
6		内容把握	4	A	
7		内容把握	3	A	
8		内容把握	3	B	
9	判断推理／ 数的推理	集合算	1	A	【判断推理／数的推理】 今年も昨年同様、判断推理1題と数的推理8題の合計9題出題された。 数的推理：集合算と確率の問題は例年通り出題されたが、確率は昨年より2問から1問に減った。難易度も例年通り標準的だった。No. 14の数列の問題に関しては、階差数列から一般項を求めるものであり、「高校数学レベル」といえるものであったが、Kマスター数的処理P.153例題3の類題であり、そこで階差数列についてしっかり学んだ受験生は解けたのではなかろうか。顕著に昨年より難易度が上がったのはNo. 15とNo. 16の計量図形問題2問である。両問題とも、三角比(高校数学)における余弦定理の利用が自然かつ有効な問題(数年に1度その類の問題が都庁で出題されている)であり、No. 14も併せて、高校時代文系だった受験生にとっては不利だったといえるかもしれない。その他の数的推理の問題については例年通り標準的(Kマスターの例題レベル)と見受けられる。 判断推理：対応関係のNo. 12の1題のみであり、昨年に引き続き平易な対応関係の問題であった。
10		覆面算・魔方陣	5	A	
11		確率	1	B	
12		対応関係	5	A	
13		ニュートン算	3	A	
14		数列・規則性	1	A	
15		平面図形の計量	4	C	
16		平面図形の計量	2	C	
17	資料解釈	整数解	4	B	【資料解釈】 資料解釈は例年通り4題出された。しかも、去年の4題と一見して見分けがつかないほど似た資料が同じ順番で並んでいた。No. 18とNo. 19の2題は、同じ「実数」の問題であるのみならず、グラフの形態がそっくりであった。選択肢の内容も似ており、No. 18を解いた後引き続きNo. 19を解いた場合より易しく感じられたであろう。No. 20は去年と同様「増減率」の問題であり、標準的な難易度と見受けられる。ただ、正答肢において、Kマスター数的処理P.331に記載されている「近似式」をここでは使うべきではなく、使った結果この肢を誤りと見なしてしまった受験者もいたかもしれない。実際、各増減率の絶対値が10%よりも大きい場合(この問題では30%近いものまであった)、この近似式の精度は落ちてしまうので、注意が必要である。No. 21は去年と同様「構成比」の問題であり、やはり去年と似た問題であり、平易な問題であった。ちなみに、この正解肢は平均を計算させるものであり、この種の選択肢が多くみられるのが都庁試験の1つの特徴といえる。
18		グラフ(実数・構成比)	5	A	
19		グラフ(実数・構成比)	5	A	
20		グラフ(増減率)	2	A	
21	空間概念	グラフ(実数・構成比)	4	B	【空間概念】 空間概念は去年と同様No. 22～No. 24の3題。No. 22に関しては、「正8面体と正6面体(立方体)の双対性」より、「立方体の8頂点から2頂点を選ぶ場合の数 $=8C_2$ 」ということにぜひとも気付いてほしい問題である。No. 23は本試験の数的処理問題の中で最も難易度が高いものと見受けられる。そもそもこの問題は「空間概念」というよりは「計量図形」の範疇に入るのではないだろうか。実際、「三角形の合同」や「円に内接する四角形」など、計量図形の理論なしでは解けないであろう。正解は「ある扇形」から得られるのであるが、それを見出すのは容易ではない。No. 24は平易な軌跡問題であり正解しておきたい。
22		正多面体	3	A	
23		軌跡	5	C	
24		軌跡	1	A	
25	人文科学	東京の文化財建造物	1	C	【人文科学】 歴史：日本史は化政文化、世界史は世界恐慌とファシズムの台頭が出題された。近年、文化からの出題が多いが、人物名などで選択肢が切れることから、正答率も高かった。一方、世界史は肢1、2などは基本的な部分で誤りと判断できると思うが、選択した人も多く、国家公務員との併願で捨ててしまっていた人が多かったようだ。 地理：ヨーロッパの地誌が出題された。肢4を選択した人もやや多かったが、デンマーク＝ポルダールというキーワードの組合せだけでなく、デンマークの農業の特徴を理解しておくことが必要であった。 文化：東京の文化財建造物からの出題であった。建築職の人が勉強する建築家がたくさん登場しており、一般的な教養とはいえないがたい難しい問題であったため、正答率も低い。毎年、No. 25については、正答できたらラッキーくらいの気持ちでよい。
26		化政文化	3	B	
27		世界恐慌とファシズムの台頭	4	C	
28		ヨーロッパ	5	B	
29	社会科学	参議院の緊急集会	1	A	【社会科学】 社会科学は、例年どおり、法学、政治、経済から各1問ずつの出題である。法学からは参議院の緊急集会であるが、オーソドックスな問題といえる。政治からはアメリカ合衆国の政治制度であり、これも是非得点源としたい問題である。経済からは会社法における会社であるが、いずれの選択肢も典型的かつ平易である。いずれも基本レベルであり、全問正解は十分可能といえる。
30		アメリカ合衆国の政治制度	3	B	
31		日本の会社法における会社	5	A	
32	自然科学	電気回路	2	C	【自然科学】 物理：No. 32は、電気回路の問題であり、直列回路や並列回路に流れる電流の問題として考えれば、中学校の理科の範囲で考察することができた。計算問題は3年連続となった。 化学：No. 33は、物質を分離する操作について問われ、高等学校の化学基礎の範囲で学習する用語であるが、用語の正確な理解が求められていた。 生物：No. 34は、脊椎動物の分類が問われ、2020年、2010年も同様の形式で出題があり、受験生としては見たことがあることだろう。今までは、「両生類、は虫類、鳥類、哺乳類」の分類であったのが、今回は、「魚類、両生類、は虫類、哺乳類」の分類となり、鳥類から魚類へと出題の変化は見られた。いずれにせよ、やはり過去問演習は重要である。なお、こちらも中学校の理科の範囲である。 地学：No. 35は、地球の資源について問われた。水資源、鉱物資源、地熱発電と分野横断的な知識が問われたが、多少細かい知識も含まれていた。メタンハイドレート、地熱発電は、時事的な動向も踏まえて理解しておきたい。
33		物質の分離操作	2	A	
34		脊椎動物の分類	4	B	
35		地球の資源	4	A	
36	社会事情	令和4年度 食料・農業・農村白書	4	A	【社会事情】 社会事情は、例年どおり5問の出題で、食料・農業・農村白書、知的財産推進計画2023、内閣総理大臣所信表明演説、改正刑事訴訟法、国際情勢となっている。白書からの出題は毎年のことであり、食料・農業・農村白書は、食料安全保障など社会的に注目されている分野なので、是非正解しておきたい。知的財産推進計画2023と内閣総理大臣所信表明演説は、東京都としては出題が予想され得る問題といえる。改正刑事訴訟法のような改正法や新法について問う問題は、比較的準備しやすく、平易な問題といえる。国際情勢は、注目度の高い最近の出来事ばかりであり、社会科学の知識でも選択肢を絞り込める基本的な問題である。いずれも基本レベルから標準レベルの問題なので5問中4問は正解しておきたい。
37		知的財産推進計画 2023	4	B	
38		第212回国会 岸田内閣総理大臣所信表明演説	1	B	
39		改正刑事訴訟法	5	C	
40		国際情勢	1	B	

※ 正答率 (A : 60%以上、B : 40%以上 60%未満、C : 40%未満) は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ (4/25 14:00 時点) に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ (<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>) にてご案内しています。

